

9 SDGs・多様性尊重等について

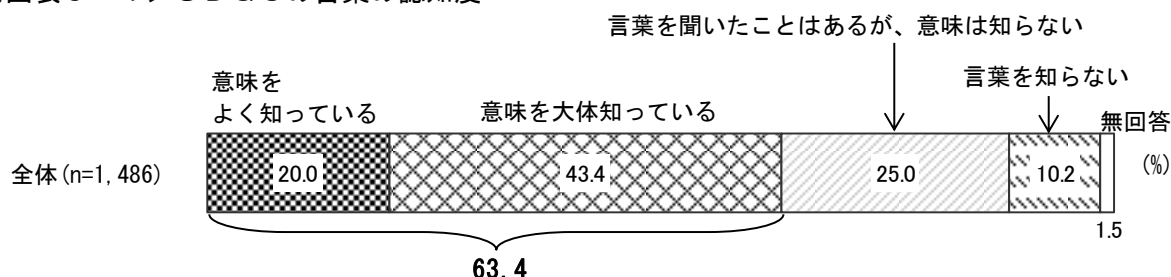
（１）SDGsの言葉の認知度

◇『意味を知っている（計）』が6割を超える

問43 あなたは、SDGs※の言葉の意味を知っていますか。（○は1つ）

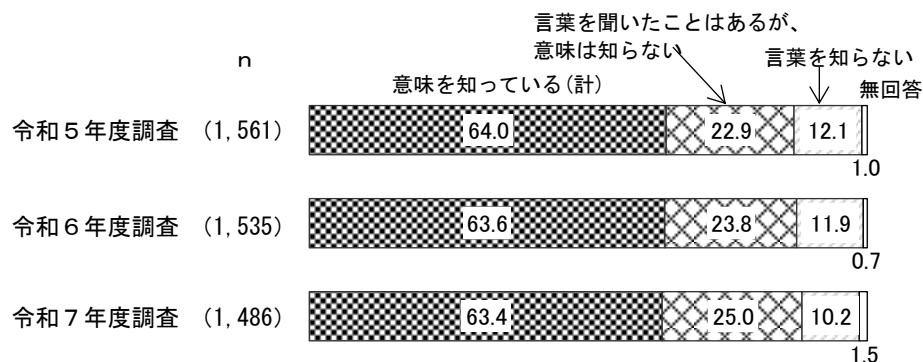
※ SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を達成年限とする世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」という理念を掲げ、経済・社会・環境の三側面の調和がとれた開発のため、17のゴールから構成されます。

＜図表9－1＞SDGsの言葉の認知度



SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（20.0%）と「意味を大体知っている」（43.4%）を合わせた『意味を知っている（計）』（63.4%）が6割を超えている。一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（25.0%）が2割台半ば、「言葉を知らない」（10.2%）が1割となっている。（図表9－1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

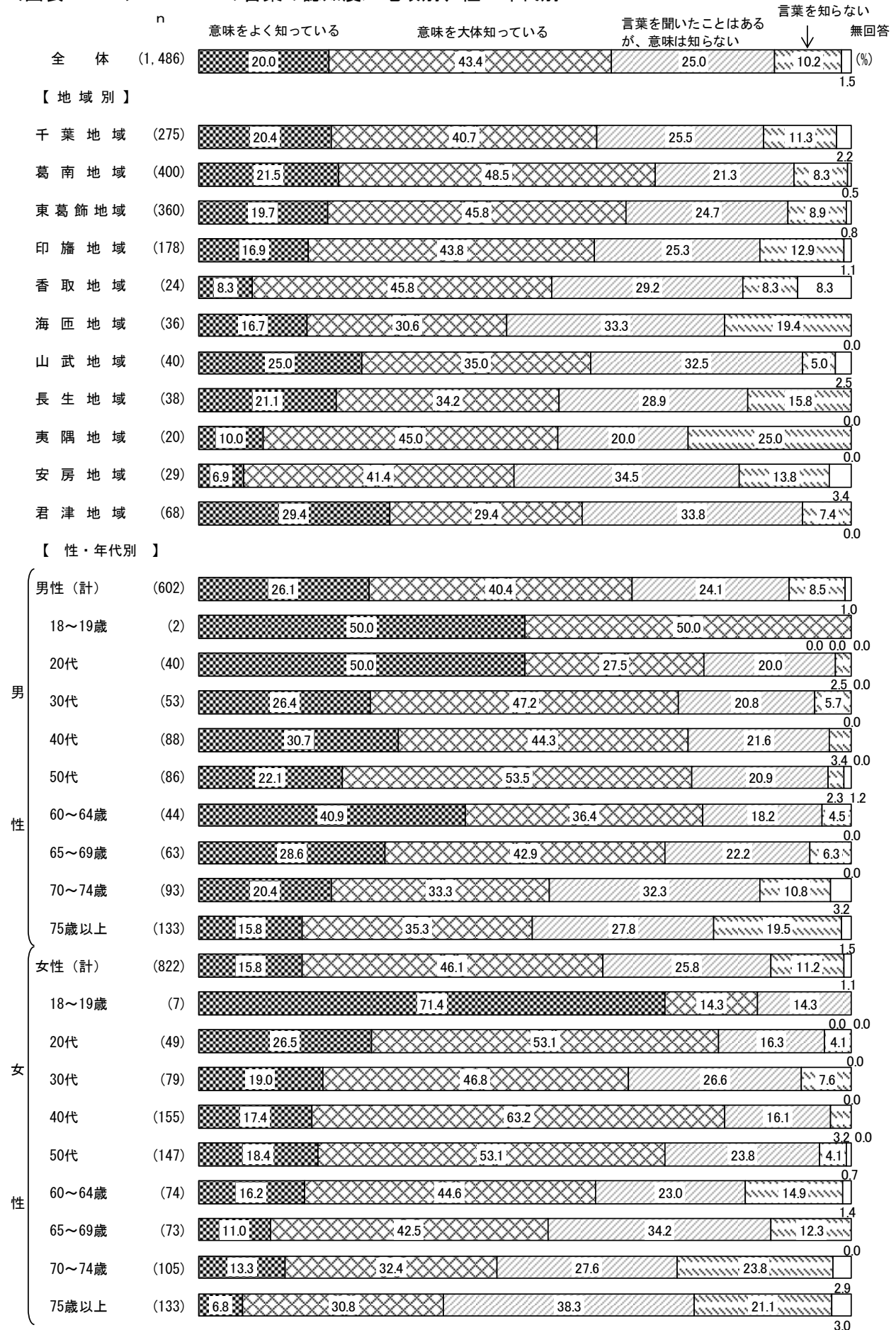
地域別にみると、『意味を知っている（計）』は“葛南地域”（70.0%）が7割で高くなっている。
（図表9－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は女性の40代（80.6%）が8割、女性の20代（79.6%）が約8割、男性の50代（75.6%）と男性の40代（75.0%）が7割台半ば、女性の50代（71.4%）が7割を超えて高くなっている。

一方、「言葉を知らない」は女性の70～74歳（23.8%）が2割台半ば、女性の75歳以上（21.1%）が2割を超え、男性の75歳以上（19.5%）が約2割で高くなっている。（図表9－2）

＜図表9－2＞SDGsの言葉の認知度／地域別、性・年代別



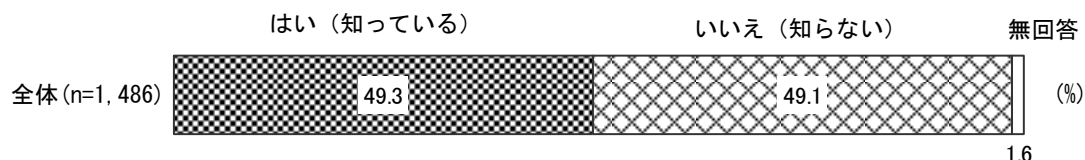
（２）「ダイバーシティ」概念の認知度

◇『はい（知っている）』が約５割

問44 「ダイバーシティ※」という概念を知っていますか。（○は１つ）

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

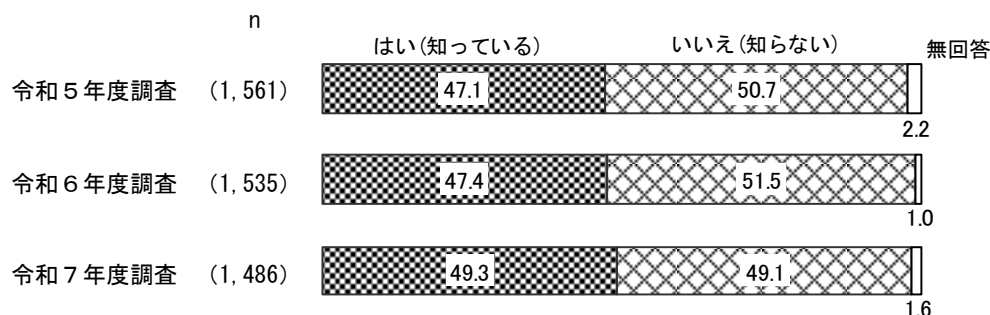
＜図表 9－3＞「ダイバーシティ」概念の認知度



「ダイバーシティ」という概念を知っているか聞いたところ、『はい（知っている）』（49.3%）が約５割となっている。

一方、『いいえ（知らない）』（49.1%）が約５割となっている。（図表 9－3）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『はい（知っている）』は“葛南地域”（56.0%）が５割台半ばで高くなっている。一方、『いいえ（知らない）』は“海匝地域”（75.0%）が７割台半ばで高くなっている。

（図表 9－4）

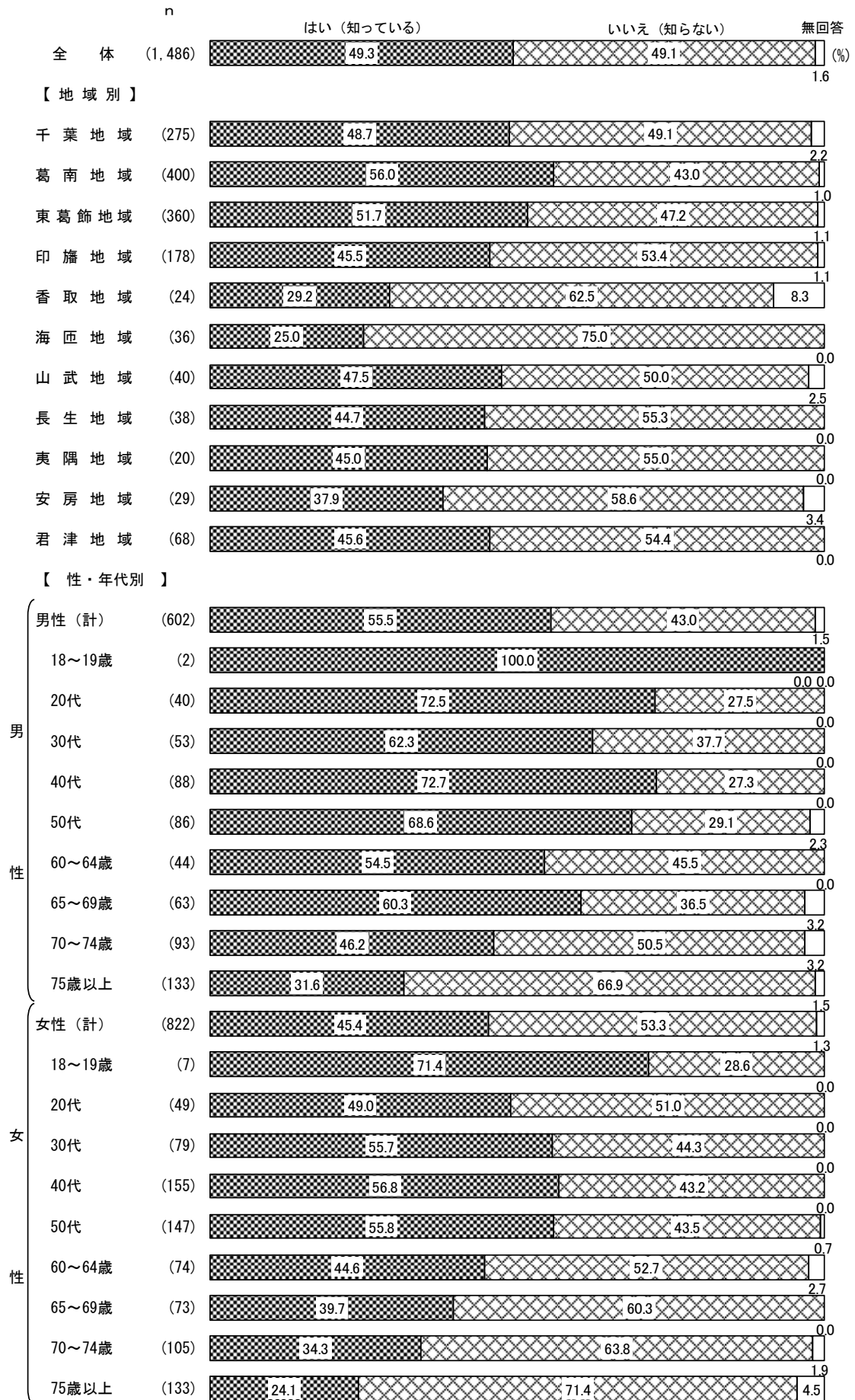
【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の40代（72.7%）と男性の20代（72.5%）が７割を超え、男性の50代（68.6%）が約７割で高くなっている。

一方、『いいえ（知らない）』は女性の75歳以上（71.4%）が７割を超え、男性の75歳以上（66.9%）と女性の70～74歳（63.8%）が６割台半ば、女性の65～69歳（60.3%）が６割で高くなっている。

（図表 9－4）

＜図表 9－4＞「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（２－１）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

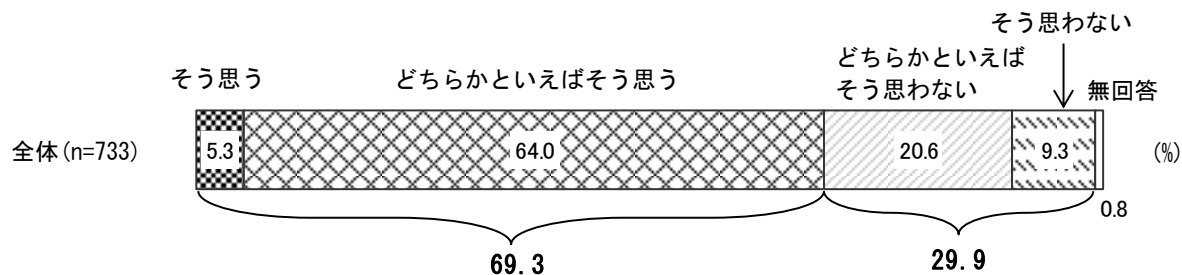
◇『そう思う（計）』が約7割

（問44で『はい（知っている）』とお答えの方に）

問44－1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」を選んだ方は、その理由をご記載ください。（任意）（○は1つ）

＜図表9－5＞千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について



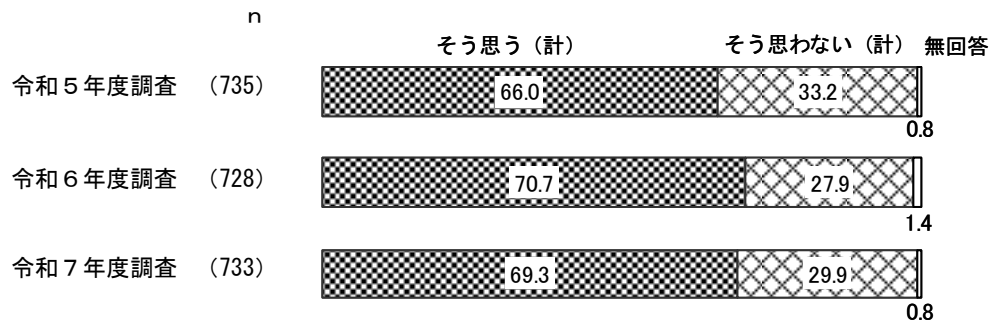
ダイバーシティの概念を知っている733人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」（5.3%）と「どちらかといえばそう思う」（64.0%）を合わせた『そう思う（計）』（69.3%）が約7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（20.6%）と「そう思わない」（9.3%）を合わせた『そう思わない（計）』（29.9%）が約3割となっている。（図表9－5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・ダイバーシティ社会の実感がない／具体例を知らないため（43件）
- ・社会の取り組みが進んでいない／浸透していないため（23件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（20件）
- ・差別や偏見があるため／なくならないため（19件）
- ・性別による格差があるため（8件）
- ・国籍、人種、言語による差別があるため（8件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（7件）
- ・地域によって差がある（7件）
- ・障がいによる差別があるため（3件）
- ・年齢による格差があるため（2件）
- ・その他（24件）
- ・わからない（8件）

〔参考〕 令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



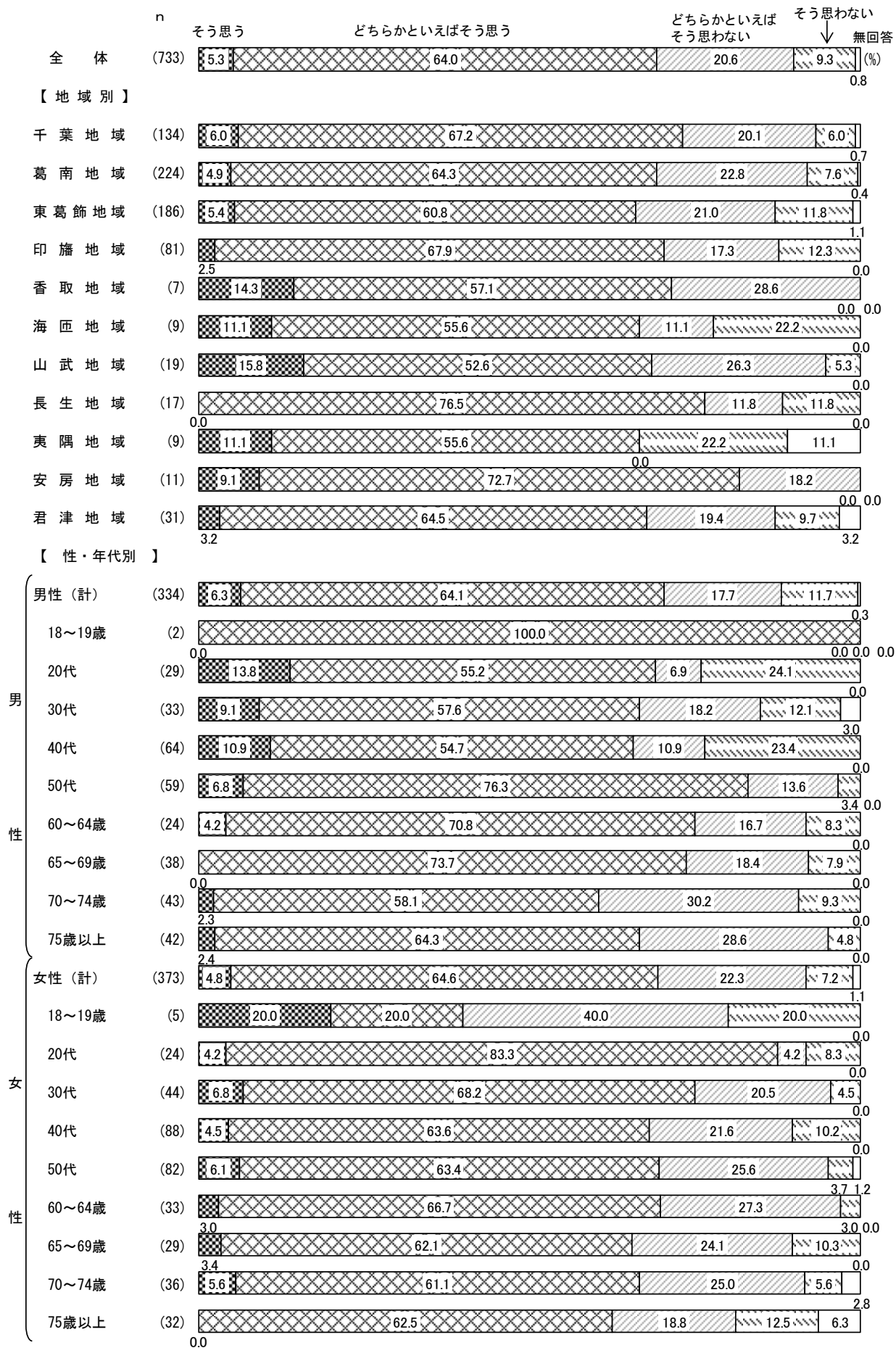
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表9－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の20代（87.5％）が約9割、男性の50代（83.1％）が8割を超えて高くなっている。（図表9－6）

＜図表９－６＞千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について／地域別、性・年代別



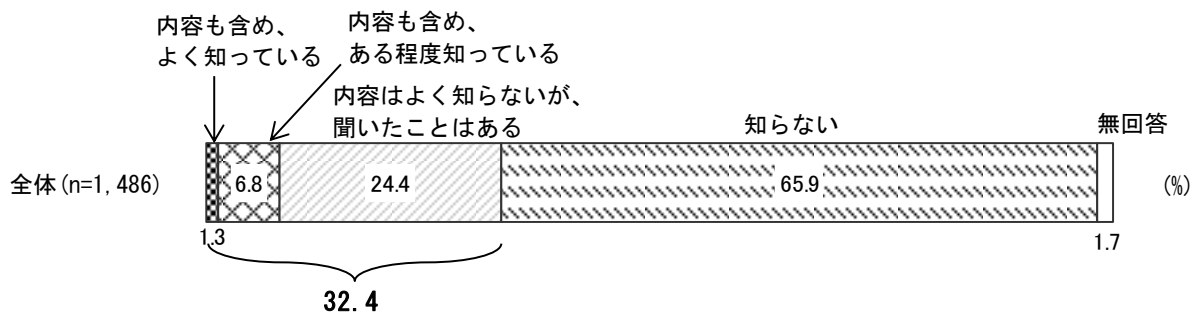
（３）「多様性尊重条例」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が３割を超える

問45 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」（多様性尊重条例）※を知っていますか。

※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

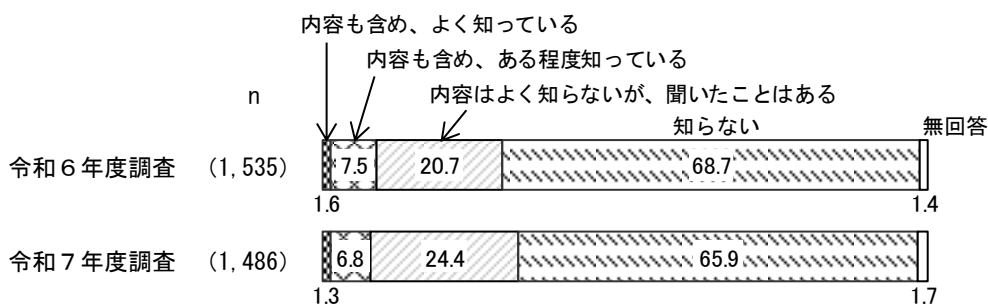
＜図表 9－7＞「多様性尊重条例」の認知度



「多様性尊重条例」について知っているか聞いたところ、「内容も含め、よく知っている」（1.3%）、「内容も含め、ある程度知っている」（6.8%）、「内容はよく知らないが、聞いたことはある」（24.4%）の3つを合わせた『聞いたことがある（計）』（32.4%）が3割を超えている。

一方、「知らない」（65.9%）が6割台半ばとなっている。（図表 9－7）

〔参考〕令和6年度・7年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある（計）』は“印旛地域”（39.3%）が約4割で高くなっている。

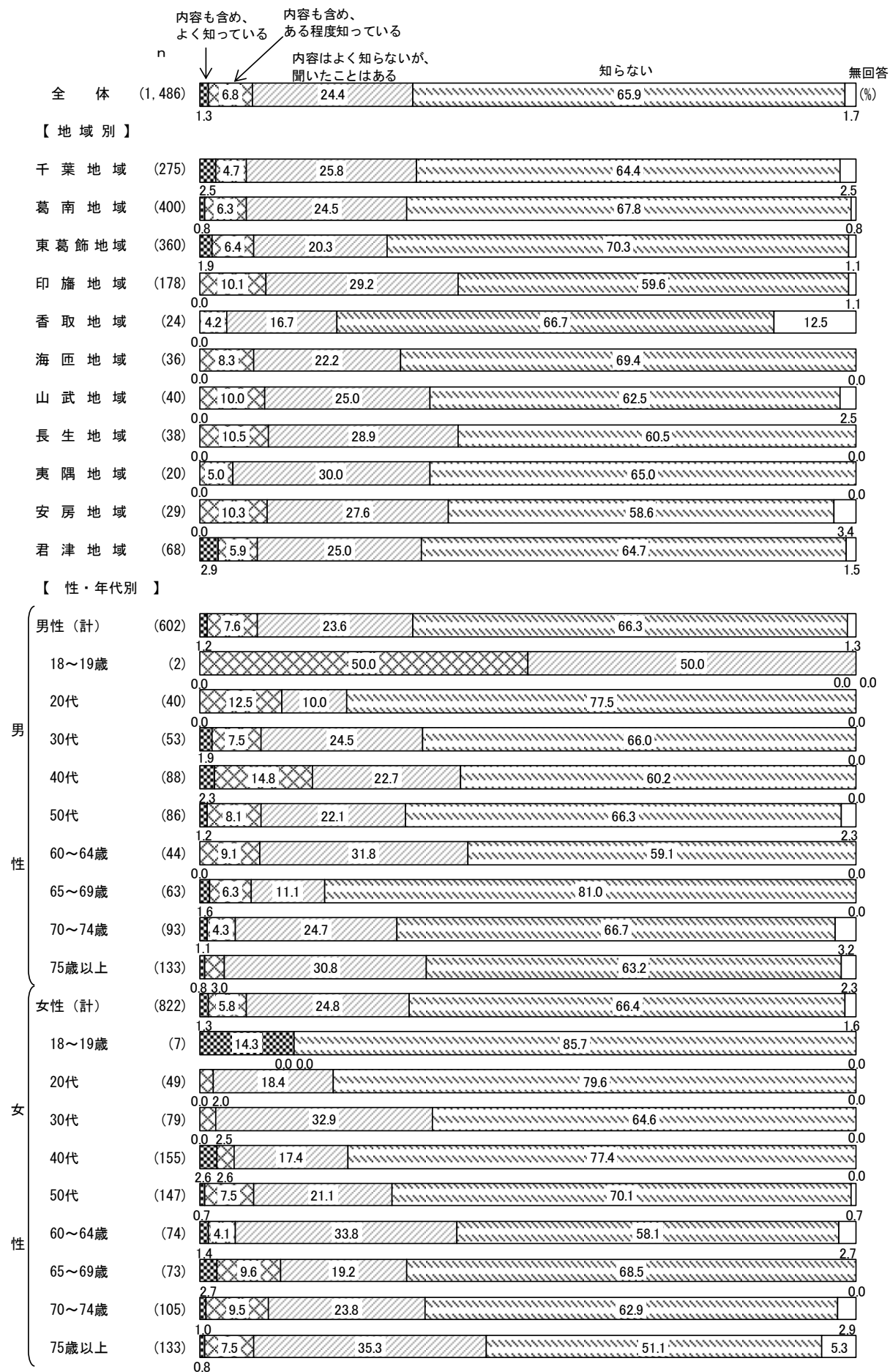
一方、「知らない」は“東葛飾地域”（70.3%）が7割で高くなっている。（図表 9－8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上（43.6%）が4割台半ばで高くなっている。

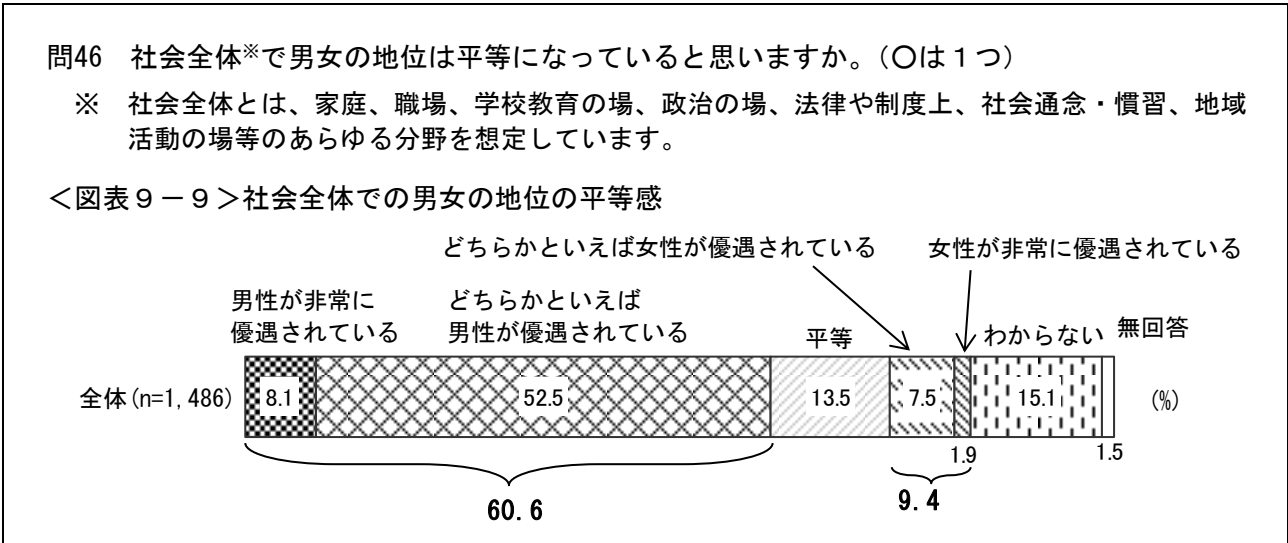
一方、「知らない」は男性の65～69歳（81.0%）が8割を超え、女性の20代（79.6%）と女性の40代（77.4%）が約8割で高くなっている。（図表 9－8）

＜図表 9－8＞「多様性尊重条例」の認知度／地域別、性・年代別



（４）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が６割

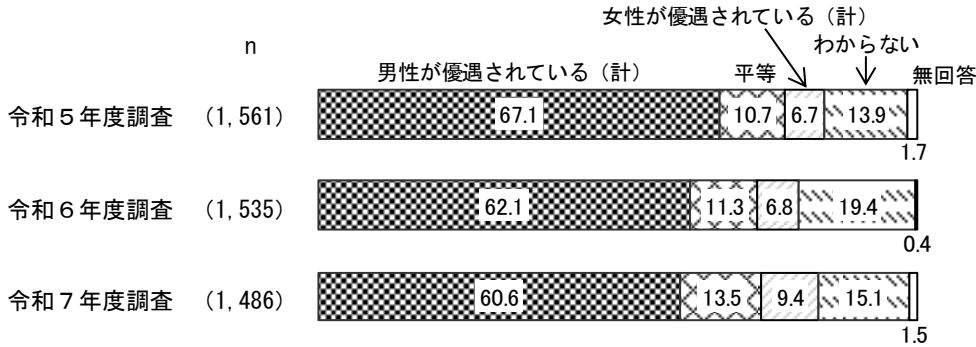


社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(8.1%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.5%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(60.6%)が６割となっている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(7.5%)と「女性が非常に優遇されている」(1.9%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(9.4%)は約１割となっている。

「平等」(13.5%)は１割台半ばとなっている。(図表 9－9)

【参考】令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

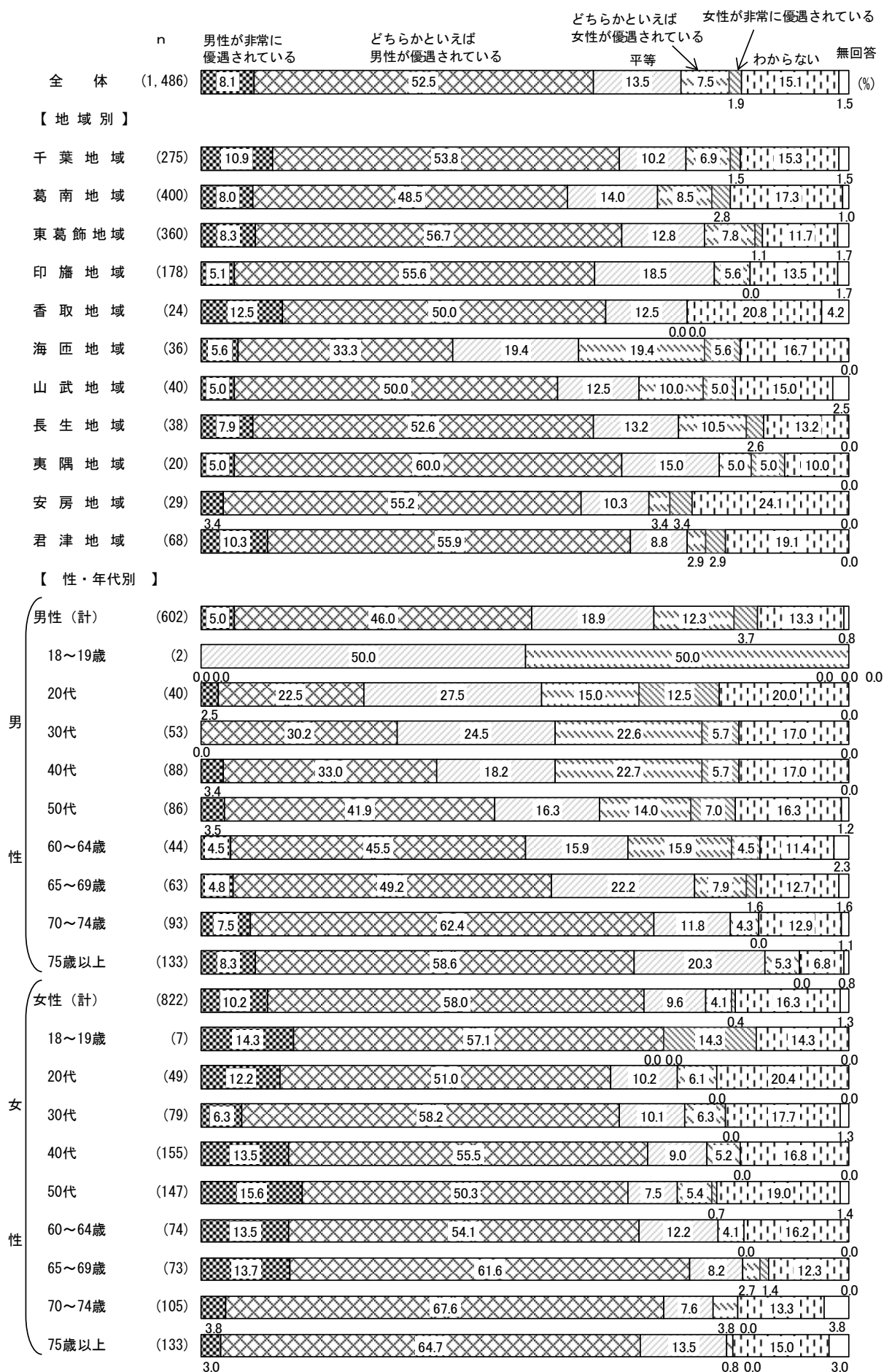
地域別にみると、『女性が優遇されている（計）』は“海匠地域”（25.0%）が２割台半ばで高くなっている。(図表 9－10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性の65～69歳（75.3%）が７割台半ば、女性の70～74歳（71.4%）が７割を超え、女性の40代（69.0%）が約７割で高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の40代（28.4%）、男性の30代（28.3%）、男性の20代（27.5%）が約３割、男性の50代（20.9%）と男性の60～64歳（20.5%）が２割で高くなっている。「平等」は男性の20代（27.5%）が約３割、男性の30代（24.5%）が２割台半ば、男性の65～69歳（22.2%）が２割を超え、男性の75歳以上（20.3%）が２割で高くなっている。(図表 9－10)

＜図表 9－10＞社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

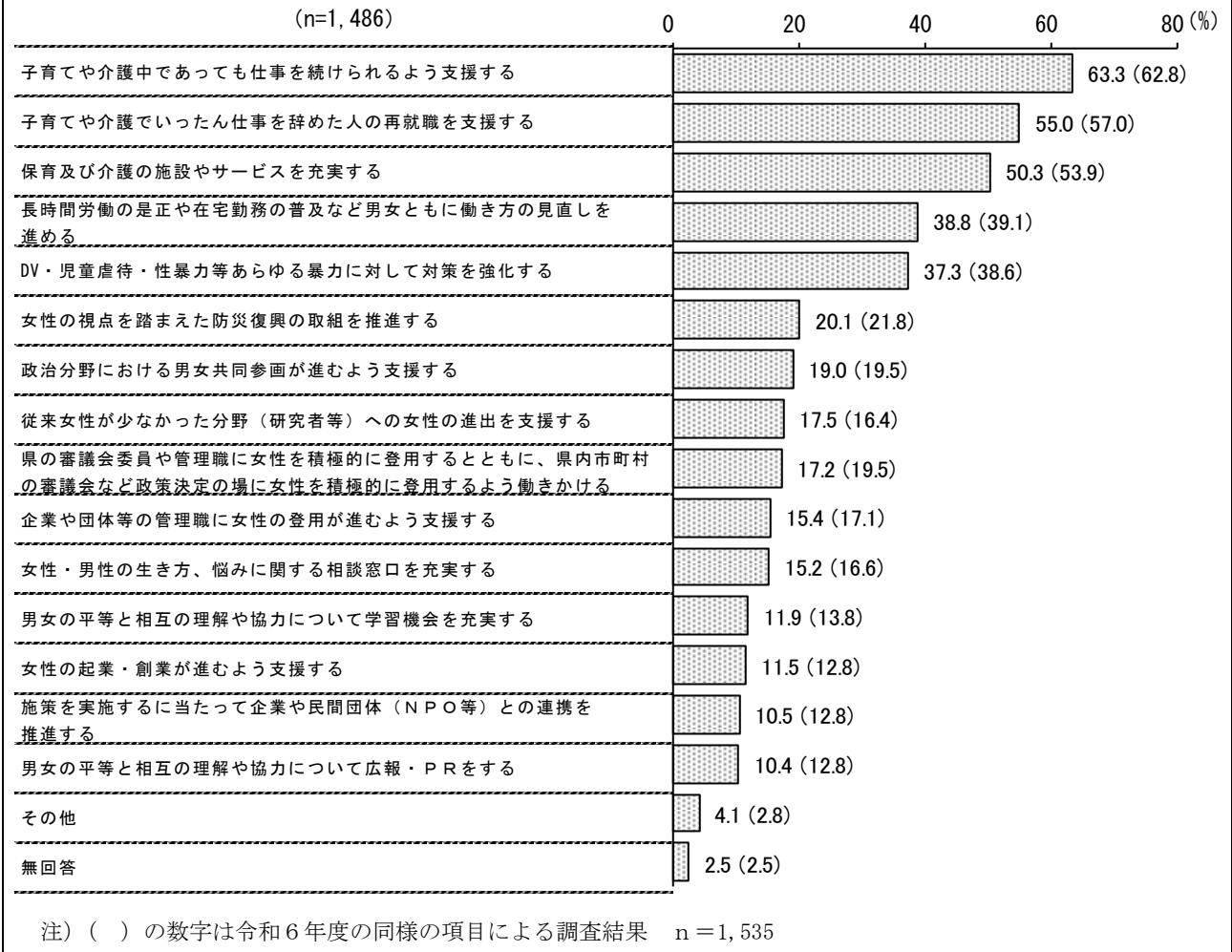


（５）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が６割を超える

問47 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（○はいくつでも）

＜図表 9－11＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（63.3%）が６割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（55.0%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（50.3%）、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（38.8%）が続く。（図表 9－11）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 9－12）

【性・年代別】

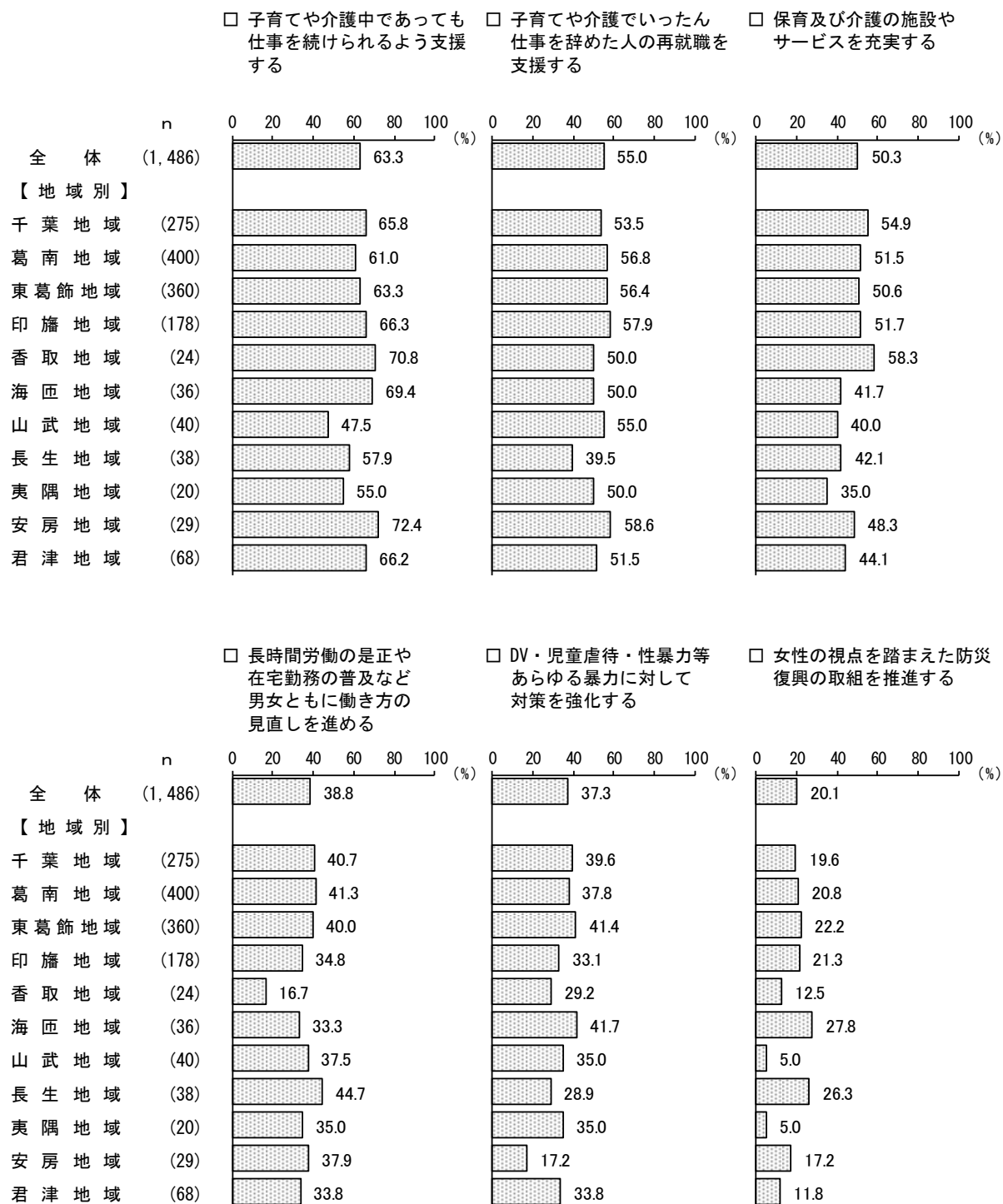
性・年代別にみると、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は男性の70～74歳（67.7%）が約7割で高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の70～74歳（63.8%）が６割台半ばで高くなっている。

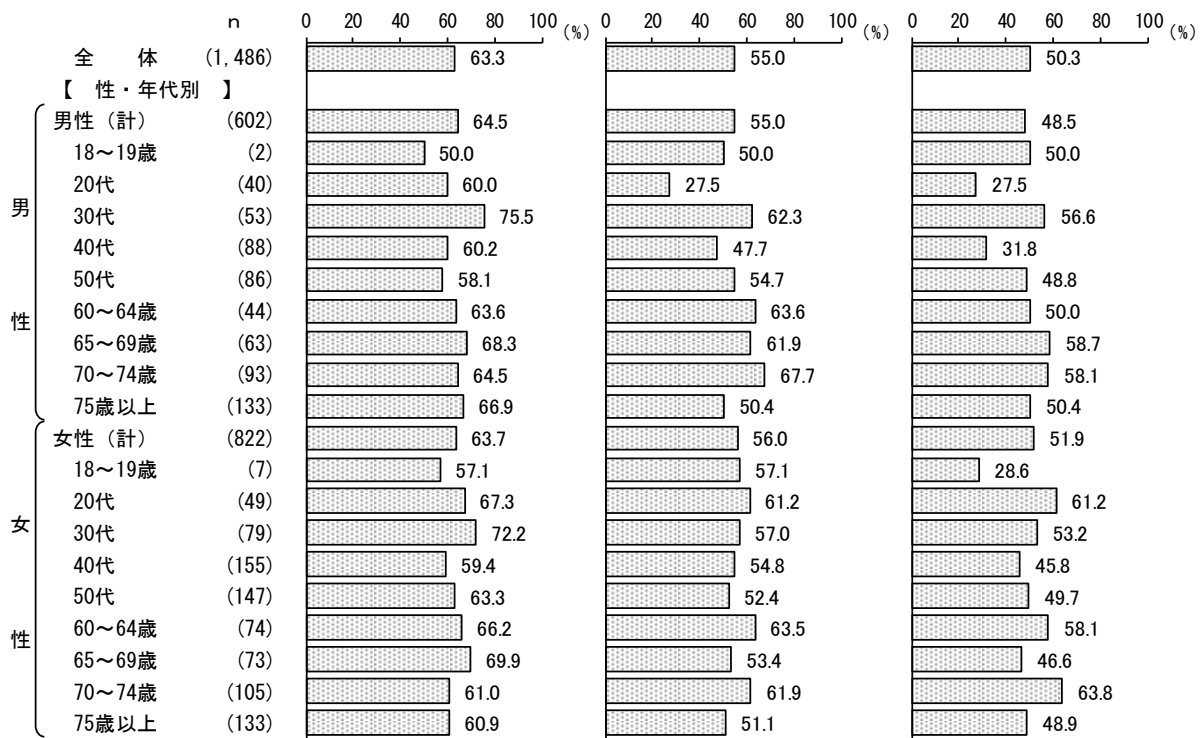
「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の20代（59.2%）が約6割、女性の30代（55.7%）が5割台半ば、女性の40代（46.5%）が4割台半ばで高くなっている。（図表9－12）

＜図表9－12＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
□ 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
□ 保育及び介護の施設やサービスを充実する



- 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
□ DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
□ 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する

